

## 同窓会会報100号に寄せて

同窓会会報が創刊してから100号を迎えました。そこで創刊号から100号までの会報の中で、トピックスや懐かしい記事、出来事などを何回かに分けて掲載する事にいたしました。この企画に際し、創刊号から読み返してみますと、同窓会の創設当時に於ける諸先輩のご苦勞が計り知れます。また、広報も担当理事が紙面づくりに苦勞されていた様子も、垣間見られます。当時の記事を見るにつけ「ああ～、こんな事もあったな～」と思い出がよみがえります。写真を掲載出来ないのが非常に残念ですが、皆さんとてもお若いです。その時代ならではの記事もあり、チョット当時を思い起こされる事が出来れば幸いです。

### 1 回生 柳沢 三郎 創刊号より2号まで担当

この度神奈川歯科大学同窓会会報100号を発行されるとのことで、誠に御目出度うございます。

私は昭和39年4月に神奈川歯科大学へ入学し、当時学生新聞がなく、是非必要ではないかとの要望から、門脇先生にご指導を頂きながら学生新聞の発行に協力させて頂きました。

その後、学生会の活動を知って貰うために学生会の広報誌を発行すべきではないかとの事から、学生会広報担当者として学生会広報を出させて頂きました。

この様な経緯から、昭和45年3月1回生が母校を卒業した後、皆さんのたいへんな努力で初めてこの神奈川歯科大学同窓会の組織が出来、広報担当理事として協力することになりました。

広報担当は私ひとり、何から手を付けて良いやらという状態でやっとヨチヨチ歩き始めました。

いろいろの方々から御指導を頂きながら神奈川歯科大学同窓会会報第1号を出し、そして第2号と発行させて頂きました。この時は笠井同窓会会長や理事の方々、そして堀学長をはじめ学校関係の先生方のたいへんな御協力があったからこそ感



謝して居ります。

今振り返って残念なのは第3号の原稿の割り振りを始めましたが、いくつかの原稿が集まらないうちに任期が来てしまい、途中まで出来上がっていた3号が幻となり、折角皆様に協力頂いた大切な原稿が第3号として発行できなかったことです。

その後広報委員会の機構も立派な形になり、年度が変わって役員・理事が変わっても充分その役目を果たしておられるようです。

今後、神奈川歯科大学同窓会会報が益々発展されます様祈願させて頂き、いろいろの感慨を持ちながら筆を置かせて頂きます。

### 3 回生 松川 潔 4号より11号までを担当

同窓会会報100号達成おめでとうございます。

昭和46年、笠井会長のもとに発足した第1期同窓会によって、現在に至る同窓会発展の基礎が築かれました。当時新設校であった本学が、1回生の先輩方を中心に、全く未知の組織作りに、手探りで努力されていたことは、想像に難くありません。

私が広報担当理事を任されたのは、昭和48年から始まった三宅執行部の時でした。古い話で恐縮



ですが、今から31年も前のことです。同窓会発足より3年目、会としての機能は殆ど確立していない時期でありました。当時の記録を見ますと、重点施策として、会則検討委員会の設置、同窓会支部の確立、広報活動の確立等々あります。混沌とした組織を確立し、同窓会発展の基礎を踏み固める、まさに草創期であったと思います。

広報活動については、三宅会長が選出された昭和48年に、会報第4号を発刊しました。これは神奈川歯科大学20周年記念誌にも掲載されています。私自身、30年以上前の出来事について、あまり記憶にないのですが、この会報第4号を編集した、当時の気持ちだけは、今でもはっきりと覚えています。3回生を中心に組織された、新執行部の意気込みを、全国に発信したい、という強い情熱があったように思います。大学新聞の発行に携わっていた経験も、紙面づくりに役立ちました。ただ残念なことは、私自身の病気による長期入院のため、理事としての仕事を全うできなかったことでした。このことで迷惑をかけた諸先生方に、遅蒔きながらお詫び申し上げます。同窓会会報100号達成に当たって、その一端を担えたことを嬉しく誇りに思います。また100号達成の今日まで、広報及び同窓会の発展に尽くされた多くの皆様に感謝申し上げます。

## 4回生

## 小笠原光彦

12号より19号までを担当

神奈川歯科大学の広報100号を迎え、私にとりましても、広報は同窓会理事時代の大半をしめていましたので感無量でございます。おめでとうございます。

広報を担当しましたのは、同窓会発足3期目～7期目まで約10年間でした。約10年間のうちのそのほとんどを広報に費やしていたように思います。



その年代の編集責任者として、苦勞したことなど今も振り返ってみれば大変だったことが思い出されます。特に記憶に残っているのは、10周年記念誌の発行の時です。

創立10周年記念実行委員となり、記念誌の担当理事をまかされましたが、当時今よりもっと会員も少なく、予算もわずかしかなく、その中で作ってくれと言われ、非常に困ってしまったことが思い出されます。

まずページ数をどのくらいにするか（ページが増え過ぎるとお金がかかるし、少なすぎると記念誌にならないし。）で非常に困ってしまいました。

何とかこれもクリアーし、次に困ったのは、写真をどのくらいのせるか（写真も多くなれば予算が高くなる）、また古い写真をどのようにして集めるかということでした。

企画も決まりいよいよ原稿集めですが、これがまた大変でした。一人一人に電話をしたり近くは原稿を取りに行ったり、毎日仕事どころではありませんでした。

幸いにも大学に残っていましたが、なんとか時間を融通してもらいましたが、他の先生方には迷惑をかけたのではないかと思います。

当時編集委員は私を含め3人いましたが、他の2人は忙しいとのことで、結局最後まで1人でやることになり、時間もかかったのではないかと思います。

原稿が集まるといよいよ編集し、印刷に出し校正を行います。毎日夜遅くまで原稿とにらめっこしたことが思い出されます。

原稿もでき、最後は表紙の問題ですが（表紙が立派であればよく見えるのですが）予算の関係上、色々印刷所と検討しましたが、結局厚紙の少しよくなった程度の物になってしまいました。何とか仕上げ、一応それらしくは作り上げましたが、もう少し立派な物に作れなかった事が残念に思われます。振り返ってみますと、それなりにいい思い出になったのではないかと思います。

100回記念本当におめでとうございます。広報担当は大変だと思いますが、継続してこれからも頑張って、いい広報誌を作ってください。